

「青木淳と建築を考える」

09
JUL
2010

〈風景から建築へ〉

一昨年が「木模型から建築へ」、昨年が「ドローイングから建築へ」で、今年三回目の「風景から建築へ」です。2年間で、建築の内容がよくなり、その表現から建築を構想してみよう、ということをしてきました。今年ほう、これが、建築の内容から構想してみよう、というわけ。建築にとって、3次元の内容とモノクロの現しの両方が大切なことはもちろんのこと。内容と現しとは、建築というものの両輪、というよりも、切っても切れない関係にあるふたつの側面でしょう。つまり、素敵な内容があるということと素敵な現しがあるということが同時に感じられるとき、ぼくたちは、それを素敵な建築と呼ぶので。

とはいえ、建築を構想するとき、どんな、あるいは奇抜なアイデアをはじめから目標にするとは、たぶん無理な気がします。だから、この2年間で、現しを入りにしました。そして、今年の内容を入りにしよう、というわけ。です。

さて、「風景」は。風景という言葉には、いろんな意味があります。でも、ここで言うときは「風景」とは、「そこには様々なものを感じていた場所」という意味です。たとえば、ぼくの土着で、2階建て木造アパートに、7、2階の軽量鉄骨の外廊下や階段や、駅前、屋根付自転車置き場とかになるでしょうか。

これらの土着で、ぼくは、好き嫌いやかを越えて、強烈な何かを感じてきました。そしてぼくは、そういう場所について考えよう、建築を構想するときに重要な手がかりになる、と感じます。

そしてまた、そういう風景は、ぼく個人には感じなくても、他人には 感じられる 建築の可能性を持つ、というように思っています。

きっと、誰にでも、そんな「風景」はあるのではないかと感じます。だから、この風景から、建築を構想してみよう、です。

青木 淳

詳細は下記参照

<http://www.kobe-du.ac.jp/env/openstudio2010/>